

## 5 - 2 近畿地方の上下変動

### Vertical Movements in Kinki District

国土地理院 地殻活動調査室  
Crustal Activity Research  
Office, Geographical Survey  
Institute

近畿地方の最近の一等水準測量は1971年度に実施され、その結果は前国会報に紀伊半島および田後-三国間の上下変動として一部報告されている。本稿では、兵庫県和田山町-京都市間、三重県多気町-四日市市間の上下変動と年平均潮位差の補正法による近畿地方全体の上下変動について報告する。

兵庫県和田山町-京都市間の上下変動は、1972年8月31日京都で震度Ⅳの地震 ( $\phi = 35^{\circ} 17'$ ,  $\lambda = 135^{\circ} 37'$ ,  $M = 5.1$ ,  $d = 20 \text{ km}$ ) がおき、地殻変動との関連に興味を持たれたが、第1図からわかるように1971年-1965年の測量結果では最近接水準路線からの水平距離  $l$  が20 km以上となるため、この地震による影響は現われていない。1965年-1927年の資料では京都付近の造盆地運動による沈下がよく現われている。これは最近までも継続していることがわかる。1927年-1887年の資料では特にこれといった変動はみられない。

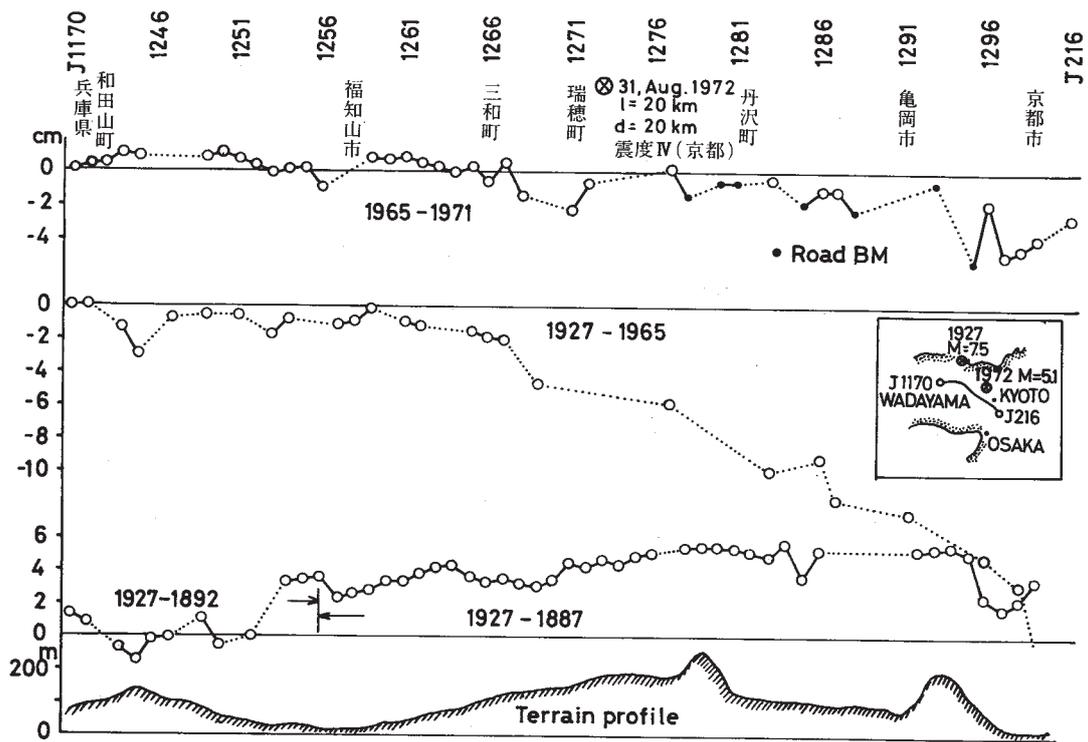
三重県多気町-四日市市間の上下変動は、第2図に示される。三重県多気町のJ1510は前国会報の紀伊半島の上下変動に連結する水準点である。この水準点から四日市市に行くに従って1890年以来沈降しているのがわかる。前国会報の日本における年平均潮位差(1960年~1971年)では油壺と比べて鳥羽は異常に沈下しているが、三重県多気町から四日市市にわたる水準測量の結果では、このようなことは現われていない。鳥羽検潮所固有の人為的変動か地殻変動或は地盤沈下かどうかを調べるため、水準測量を同検潮所にとりつけてみる必要がある。

近畿地方全体の最近約5年間にわたる上下変動は、検潮所の年平均潮位の速度を使い決めたもので第3図に示す。

この図では名古屋付近、大阪付近等の地盤沈下が顕著にあらわれているが、地殻変動では、紀伊半島南部、四国南部に南海地震以後の最近の変動がみられる。最近約5年間の変動では、四国南中央部の最大隆起軸は紀伊半島南中央部にも続いているとみられ、南海地震後、両地域は全体として隆起しているが、傾動は南下がりである<sup>(1)</sup>。

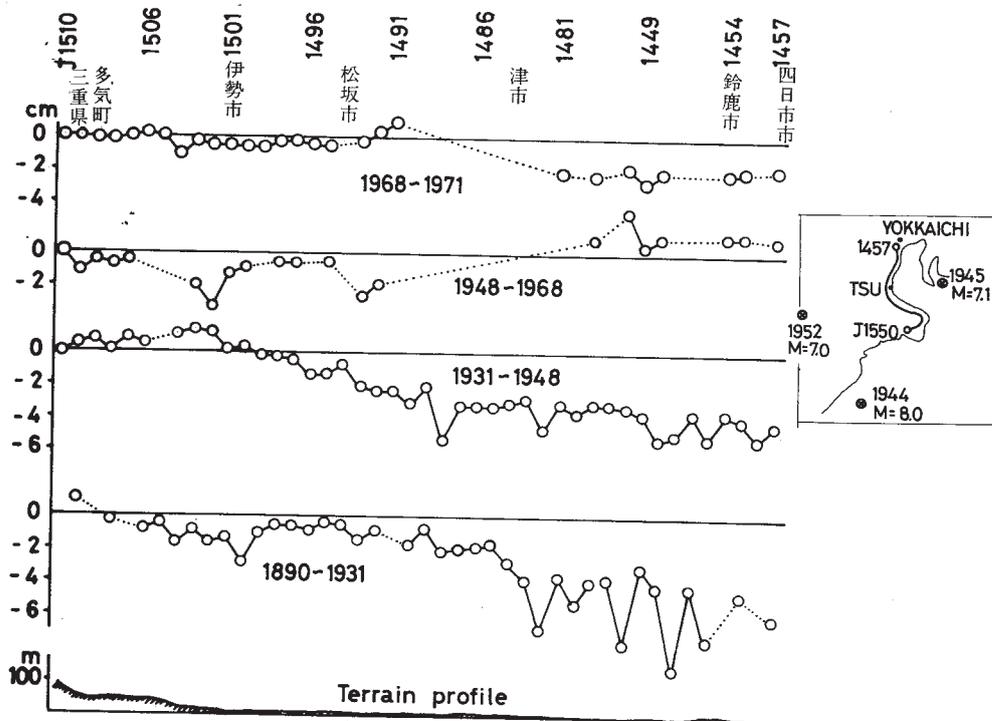
### 参 考 文 献

- (1) 国土地理院, 地殻活動調査室, 測地部; 紀伊半島の上下変動, 地震予知連絡会々報, 第8巻, P83 - 85. (1972)



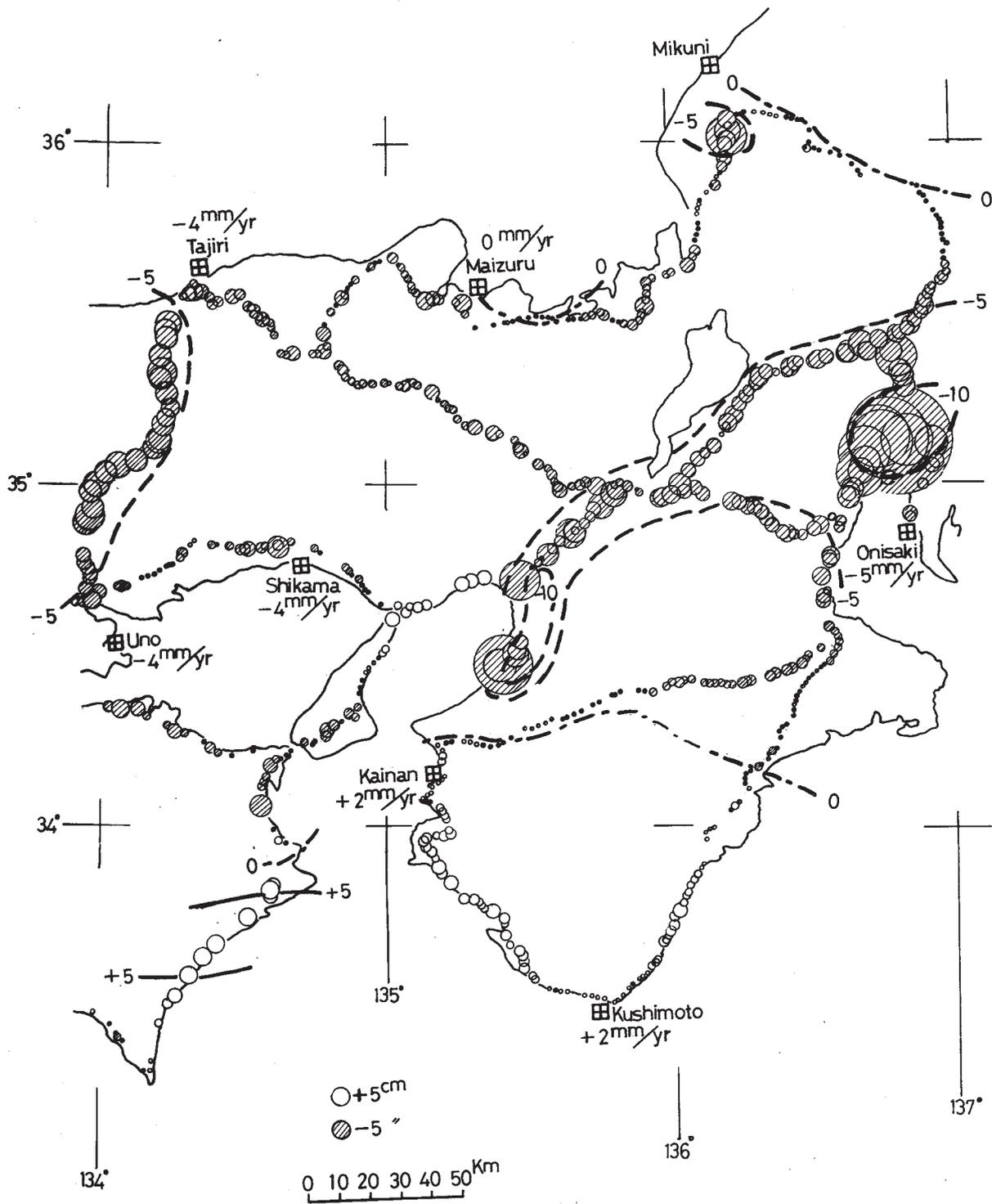
第1図 兵庫県和田山町-京都市間の上下変動

Fig. 1 Vertical movements between Wadayama Town in Hyogo prefecture and Kyoto City



第2図 三重県多気町-四日市市間の上下変動

Fig. 2 Vertical movements between Taki machi in Mie prefecture and Yokkaichi city



第3図 近畿地方の上下変動 (1964 ~ 68 - 1970 ~ 72)  
 Fig. 3 Vertical movements in Kinki district (1964 ~ 68 - 1970 ~ 72)